

金賞

法学部 法律学科 4年

大島隼人さん

『帰ってきたヒトラー』 / ティムール・ヴェルメシュ 著 / 河出書房新社

民主主義とは何だろうか。ただ選挙に行くことだけがそうではない、物事を正しく認識する能力が我々に求められると本書は説く。

本書は現代のベルリンにタイムスリップしたヒトラーが「ヒトラーのそっくりさん」としてドイツに物申す、コメディとしても楽しめる風刺小説だ。コメンテーターとして名を馳せた彼は、持ち前の知能の高さから国民が求めていることを読み取り、それを力強く民衆に説く。

現在のドイツを的確に捉え、わかりやすく、自らの願いを代弁したかのような主張に国民が熱狂していく描写は狂気でもあり、衆愚政治の未来ではないだろうか。

本書最大の魅力はヒトラーをカリスマとして描いていることだ。著者のヴェルメシュはヒトラーを単純に悪魔化するだけではその危険性を十分に指摘できないとして、彼の優秀な姿を描写した。彼は怪物ではなく我々が選んだ政治家なのだと。

現代にヒトラーが現れたとしよう。あなたは正気を保っていられるだろうか。